

# 《 卒業生は今 》

－ 漁業に就職して感じたこと －

漁業高等学園では、昭和45年の設立以来、昨年度までの卒業生は902名に達し、様々な漁業で活躍しています。そこで、卒業生が、今、どんな漁業に携わっているのか、就業してどんな感想を持ったかなど、紹介します。

**No.40 Iくん (平成29年3月卒・航海専攻・現20歳) サバ・サンマ棒受け網船**

## Q. 仕事の内容は？

- \* サバ漁の時：コマセ（餌）の積込み、コマセをすり潰す作業をしている。また、操業中は網を手で絞ったり、タモで魚をすくう作業をしている。
- \* サンマ漁の時：氷の積込み、氷を細かく砕いて吸い上げる作業をしている。また、操業中は海面を照らして跳ねるサンマを探すライトワッチもしている。
- \* その他、ブリッジでの当直、水揚げ作業をしている。

## Q. 大変なことは？

- \* コマセの積込みは、1個15kgを400枚、多い時は700枚を手渡しで積込むが、新人が一番きつい場所をやる。
- \* 氷は船に積む時に砕いているが、保存しておくので使う時に棒で砕いてやる。
- \* 漁場が近いと寝る時間が1時間になったりする。

## Q. 良いこと、楽しいことは？

- \* サンマが食べ放題である。
- \* 冬は北海道や東北の港に行ける。

## Q. 学園在学中の思い出は？

- \* 午後に皆でやった筋トレ、実習船「やいづ」での船員との会話、カツオ一本釣りが思い出に残っている。

## Q. 学園で学んだ（身に付けた）ことで、現場で役立っていることは？

- \* 実習では、ロープワークと縄の刺し継ぎ（三本刺し）が役立っている。
- \* 勉強では、当直で舵を持つため、海事法規の航行規則の知識が役立っている。

## ☆. 在校生へのアドバイス

- \* 現場に出るとすごく体的にも精神的にも厳しくなります。基本的な知識は身につけて積極的に海技士にチャレンジした方がいいと思います。

(平成29年12月20日)